

- 現地紙報道によりテメル大統領の汚職隠蔽疑惑が浮上したことで、ブラジルの政局不透明感が急速に高まる。
- テメル大統領は疑惑を否定し、辞任しない方針を示す。政治的混乱により、年金改革法案の審議が遅れる懸念が高まる。
- 5月18日のブラジル金融市場では、政局の混乱が嫌気されブラジル株や通貨レアルが急落し、国債利回りも急上昇。
- 大統領の会話の録音テープの内容次第で、今後の政局の行方は流動的。当面は神経質な相場展開が続く見込み。

テメル大統領の汚職隠蔽疑惑が浮上

ブラジルのテメル大統領による汚職隠蔽疑惑が浮上したことを受けて、ブラジルの政局不透明感が急速に高まっています。5月17日夜（現地時間）のグローブ紙報道によれば、食肉大手JBS社幹部の司法取引証言の中で、エドゥアルド・クローニャ元下院議長（汚職容疑で現在逮捕中）に対する口止め料を払うことをテメル大統領が容認する発言をしている旨の疑惑が明らかになりました。

政局の混乱を受けてブラジル株やレアルが急落

テメル大統領はJBS社幹部との会話の事実を認めながら、汚職隠蔽の疑惑を否定する声明を公表し、大統領職を辞任しない方針を示しました。

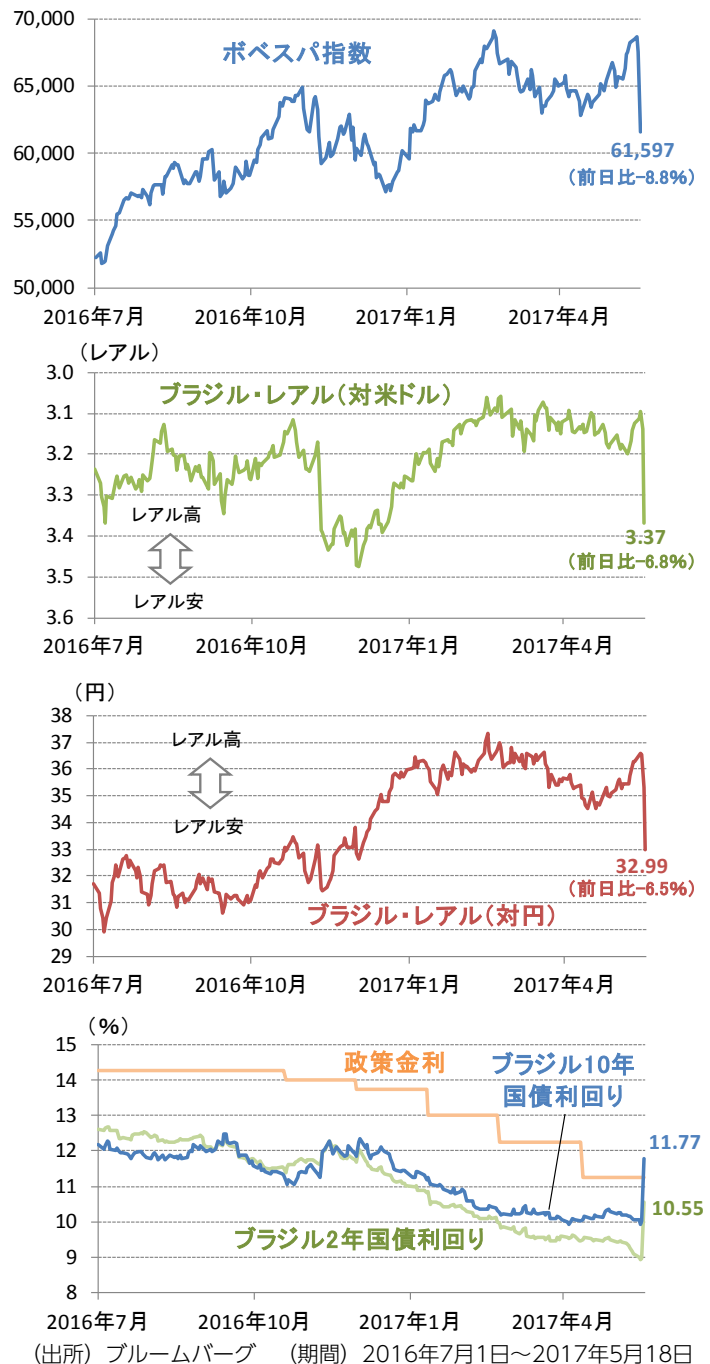
一方、①最高裁のファキン判事が大統領への汚職捜査の開始を承認したことや、②主要都市で大統領辞任要求デモが発生したこと、③議会で大統領の弾劾請求が提出されたことなどから、政局の混乱が長期化する可能性もあります。議会では年金改革などの重要法案を審議中ですが、大統領の汚職隠蔽問題の浮上を受けて経済改革が遅れる懸念が増しつつあります。

5月18日のブラジル金融市場では政局の混乱が嫌気され、ブラジル株や通貨レアルが急落したほか、ブラジル国債利回りも急上昇しました（図1）。

会話の内容次第では今後の政局は流動的

テメル大統領とJBS社幹部の会話を記録した録音テープの詳細な内容次第で、今後の政局の行方は流動的であると考えられます。5月18日に明らかになった録音テープの一部内容では、テメル大統領の汚職隠蔽への関与を裏付けるには「決定的ではない」（現地紙）との見方もあり、事態が安定化に向かう可能性も残されています。当面のブラジル金融市場は、テメル大統領の汚職隠蔽疑惑を巡る方向性が明らかになるまでは、神経質な展開が続くそうです。

図1：ブラジル金融市場の動向



●当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的としてレグ・メイソン・アセット・マネジメントの情報を基に、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。●当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。●投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。●手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品をお勧めするものではありませんので、表示することができません。●当資料のいかなる内容も将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。